

2019 年度

日本ヒューマンライブラリー学会

Human Library Society of Japan

第 3 回大会

プログラム

2019 年 10 月 20 日(日)

会場:東京学芸大学 第 2 むさしのホール

プログラム内容

12 時 00 分～	受付 (1F)
12 時 30 分～	体験会 (75 分)(1F)
14 時 00 分～	休憩(10 分)
14 時 10 分～	総会(30 分)(2F)
14 時 40 分～	ポスター発表 (第 1 セッション) (30 分)(1F)
15 時 10 分～	ポスター発表 (第 2 セッション) (30 分)(1F)
15 時 40 分～	休憩 (10 分)
15 時 45 分～	ワールドカフェ (90 分) (2F)
17 時 15 分～	懇親会 (1F)
18 時 30 分	終了

ごあいさつ

2000年にデンマークの若者が始めた「人を貸し出す図書館」であるヒューマンライブラリー(Human Library)は、現在までに世界90カ国以上に拡がり、今や楽しい対話による相互理解促進ツールとして活用され、大きなムーブメントに成長しています。

わが国では2008年の初開催から11年目になる今年は、ヒューマンライブラリー開催の機運は一層拡がり、毎月平均2回のペースで全国各地で開催されており、開催形態にも多様性が見られるようになりました。昨年12月はNHKのニュース番組で、今年6月はテレビ朝日系列のニュース番組での放映で注目されたり、今年度から一部の高校の英語教科書でもリビングライブラリーという旧名称で取り上げられたこともあり、高校生など若い世代にも広がるきっかけになるなど、ヒューマンライブラリーは新たなステージを迎えています。

そうした事態の推移を背景に、昨年設立された本学会は日本の情報センターとして、またヒューマンライブラリーの実践と研究を集約し推進する重要な機関として、その役割を期待される立場になったといえましょう。

本学会設立3年目の今大会は、そうした意味で多様な実践者や研究者などの関係者が集い大いなる対話と交流の場になることを期待しています。

2019(令和元年)10月20日

日本ヒューマンライブラリー学会
理事長 坪 井 健

本日の流れ

12:30－13:45 ヒューマンライブラリー体験会 2019

「ヒューマンライブラリー体験会」に参加される方(読者)へ

本イベントは寛容で多様性のある社会を目指し、ふだん間接的にしかお話しすることのできない方々との出会いの機会を提供し、理解を深めてもらうことを目的に開催しております。

ヒューマンライブラリーのご利用にあたりましては、上記の目的、ならびに以下の利用規約への同意(署名)が必要となります。

〈利用規約〉

- 1) 意図的に「本」の方を傷つけるような言動はしない。
- 2) 主催者並びに「本」及び同席者に無断で会場内の撮影や録音、録画をしない。
- 3) 今回、読者として知り得た「本」の方の個人情報を許可なくブログ、インターネット、印刷物等のメディア上に公開しない。
- 4) 閲覧中に、「本」の方が身体的、精神的に苦痛を感じ継続困難になった場合には、途中で退席して頂く場合があります。
- 5) その他、緊急事態が生じた場合は、本の貸出中止になることがあります。その場合には、速やかにスタッフの指示に従っていただきます。

※以上の規約に反する行為を行ったと見なされた場合、利用を中止し退場して頂くことがあります。

利用同意書に署名された方にのみ、本との対話を許可いたします。

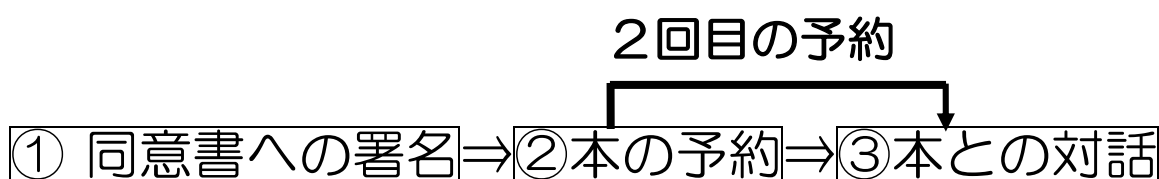
※スタッフが記録のため写真撮影することがあります。

顔出しを拒否される方は、係員にお申し出ください。配慮致します。

※なお、記入いただいた個人情報は、本イベントの利用登録以外に使用することは一切ございません。イベント終了後、責任を持って廃棄させていただきます。

※署名していただく利用同意書は、別紙で用意しています。

「生きた本」の貸し出しまでの流れ



体験会 第1回目 12:30-13:00 / 第2回目 13:15-13:45

本のあらすじ

1. ヒロさん 「あたしはあたし」

あたしは僕で生まれ、性別違和を抱きながら俺で育ち「男」になって、今はホルモン異常になり日々女性化が進行していて、体の変化と共に本来の気持ちの性だった女性として生きる事を決めました。決して平坦な道ではないと思うけど、明日も笑顔でいたいから自分の気持ちに素直になって今日も明るく生きています。

2. 柳下明子（リュウシャ）さん 「ベリーダンサーってどうなんでしょうね？」

ベリーダンスに出会うまでの自分の人生体系のドラマ。完璧主義の両親の離婚劇や、スーツケース一つで現家族から逃亡したこともあった。ベリーダンスとは、腹を人前で出すというプライマリな踊り。それは、ジェンダーアイデンティティーの解放欲を、美魔女が表現するもの。ロスト、依存症。それは娯楽かアートか。祖国を持たぬ民であるジプシーへの普遍的憧れを持つ、ジャパニーズの私の語りをお届けします。

3. Hillary さん「身体性は男性、性自認は女性のトランスジェンダー+レズビアン」

身体性が男性で、恋愛・性愛の対象が女性という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚もできるし、子作りもできる私。しかし実生活では、レズビアン+トランスジェンダー（身体性は男性、性自認は女性、恋愛・性愛の対象は女性）といった複数のマイノリティ性を持つ人々の存在が世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生き辛さ感を気軽に相談できる相手がほとんどおらず、一人で思い悩むことも多くあります。そんな私の日常をつづった物語です。

4. 瞬さん 「トランスジェンダーの私が、本当の私を取り戻す道のり」

トランスジェンダー・MtF、男性として生を受け、女性として生きている瞬が、偏見や差別、そして自分自身と葛藤し続けながら、本当の自分を取り戻し、幼き頃から何度も諦めた夢さえ叶えられるようになるまでの道のり。人としての“気付き”や、LGBTQを“知る”機会となれましたら、嬉しいです！

5. 武井 誠さん 「CODA って知ってる？～ろう者と聴者の狭間で～」

両親とも、ろう者の元に生まれた聴者である私。聞こえない世界と聞こえる世界を行ったり来たりしつつ、ついでに母親がアメリカ人で日本文化とアメリカ文化の間を行ったり来たり。ろう者や手話が嫌いだったはずなのに、気が付いたら手話でご飯を食べていました。そんな半生をろう文化・聴文化・日本文化・アメリカ文化4つの視点からお話しします。

6. ワッカスさん 「クルド人問題と在日クルド人難民」

皆さんは、クルド人について知っていますか？ 本日は、クルド人とクルドの歴史と文化について述べた後、なぜクルド人が難民になったのか、そして日本のクルド人の問題についてお話しします。

14:10-14:40 総会 2F

総会の議題

1. 2018 年度活動報告
2. 2018 年度会計報告
3. 2018 年度監査報告
4. 2018 年度・2019 年度役員任期満了について
5. 2019 年度活動計画
6. 2019 年度上半期会計報告
7. 2020 年度大会の開催について
8. その他

14:40-15:10 ポスター発表 (第1セッション) 1F

1. 若井 知草 目白大学外国語学部日本語・日本語教育学科
「教員免許状更新講習におけるヒューマンライブラリー」 2019 年度、教員免許状更新講習において、「多文化共生社会の日本語」という講座を二回担当した。その講座の中で、ヒューマンライブラリーの説明した上で、受講者同士が「本」、「読者」になり、ヒューマンライブラリーを体験する時間を設けた。その実施概要と受講者の反応について報告する。
2. 横田 雅弘 明治大学国際日本学部
「明治大学のヒューマンライブラリーを振り返る：2015 年度から 2018 年度までの共通アンケートを中心に」 「10 年 10 回で幕を閉じた明治大学のヒューマンライブラリーを振り返る。主催者としては、近年随分やりやすくなり、多くの開催がなされるようになってきている。オリパラを控えて、特にこの 1 年ほどはダイバーシティをテーマにした授業への学生参加が増えるなど、社会の変化を感じることも多くなった。発表では、2015 年度から 2018 年度までは共通のフォーマットを用いたアンケートを実施しているので、果たして変化はあったのかどうかを検証する。また、2018 年度はこれまでの 1 対 1 から 1 対 3 に変更している。その違いについても考えてみる。」
3. 照山 絢子 筑波大学図書館情報メディア系
「語りの場の『安全性』を問う：ヒューマンライブラリー主催者のインタビューから」 ヒューマンライブラリーにおける「本」役の人々は、自身の苦難の経験や、時に差別や偏見を受けた経験について語る。よって、その語りの場が、本人にとって安全に思われる場であること・安心して自己開示できる場であることは重要なことだ。今回の発表では、このヒューマンライブラリーを主催してきた方たちへのインタビュー調査をもとに、こうした「安全」な場を創り出すための考え方を探っていく。
4. 大坪 奈津子 株式会社 manaby 広報
A-4 「就労移行支援事業所でのヒューマンライブラリー実施事例」 manaby は、障害をお持ちの方が仕事につくまでの道のりをサポートする「就労移行支援」という活動を行っています。就労に向けた訓練として独自の e ラーニングシステムで IT スキルを学ぶほか、様々なイベントや勉強会を行っています。その一つとしてヒューマンライブラリーを実践しました。そこで見えた効果や課題をお伝えします。

15:10-15:40 ポスター発表 (第2セッション) 1F

1. 大鷹 依子 特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会
「ヒューマンライブラリーin 青森」 ヒューマンライブラリーの人と人をつなぐ力に驚き魅せられて、今年度様々な形式で5回の予定で実施しています。①まずは会員向けに小規模に(会員に知ってもらう目的) ②読者を一般公募し少し規模を大きく ③実際の県立図書館という空間で「本」役のおすすめ図書も紹介しつつ更に規模を大きく開催 ④男女共同参画センターの大きなイベントの1ブースとして参加開催 ⑤高校で生徒を対象に開催。すでに①～③は実施済みです。まだヒューマンライブラリーがほとんど知られていない青森に、どのような形で浸透させることができるか模索中です。
2. 坪井 健 一般社団法人東京ヒューマンライブラリー協会代表
「ヒューマンライブラリーの対話の可能性」 筆者は、大学を離れて1年半、自身のヒューマンライブラリーの実践のみならずヒューマンライブラリーに関心のある多くの人に出会い、ヒューマンライブラリーへの熱い期待を感じると共に、対話とは程遠い現実にも遭遇しなかなか越えられない大きな壁も感じてきた。ここでは私の実践の中からいくつかのエピソードを取り出して、ヒューマンライブラリーの「対話」の可能性について論じてみたい。具体的には1.「対話」的関係性とは何か、2.「対話」が困難な現実社会、3.「対話」不成立の社会病理、4.「対話」的空間の形成に向けて。
3. 中林 勇人 一般社団法人東京ヒューマンライブラリー協会
「人材開発プログラムとしてのヒューマンライブラリー活用の試み：LGBTフレンドリーな職場構築を目指して」 本発表では職場内のLGBTの人々に対して焦点を当てる。LGBTの人々はカミングアウトした結果、周囲から不当な扱いを受けるのではないかと恐れる傾向がある。よって、職場では異性愛者を演じる必要があり二重生活を強いられる。その結果、多大なる心理的ストレスを抱えてしまい仕事に悪影響を及ぼす。本発表ではヒューマンライブラリーを用いて職場内におけるLGBTの人々へのより良い理解と認識を深めるための2段階モデルを提示する。

15:45-17:15 ワールドカフェ「ヒューマンライブラリーの未来について考えよう」 2F

ファシリテーター 工藤 和宏 (獨協大学外国語学部)

ワールドカフェの手法を使って、来年20周年を迎えるヒューマンライブラリーの可能性と課題、そして未来について、一緒に考えてみましょう。

17:15-18:30 懇親会 1F

2018 年度役員

理事長	坪井 健 (東京ヒューマンライブラリー協会)
副理事長	横田 雅弘 (明治大学)
事務局長	山下 美樹 (麗澤大学)
理事(会計)	岡 智之 (東京学芸大学)
理事(渉外)	工藤 和宏 (獨協大学)
理事(広報)	照山 絢子 (筑波大学)
理事(庶務)	高田 光一 (ブックオフ・リーフぐりーん)
理事	佐藤 裕紀 (新潟医療福祉大学)
監事	宮崎 聖乃 (ヒューマンライブラリーNagasaki)

学会事務局 〒277-8686 千葉県柏市光が丘 2-1-1

麗澤大学 山下美樹研究室

Email: admin@humanlibrary.jp

日本ヒューマンライブラリー学会ホームページ <http://humanlibrary.jp>